

2020年3月期 第2四半期

決算説明会

日本電産株式会社



2019年10月24日

－注意事項－

本プレゼンテーション及び引き続き行われる質疑応答の際の回答には、将来に関する見通し、期待、判断、計画あるいは戦略が含まれています。この将来予測に基づく記載や発言は、為替変動、製品に対する需要変動、各種モータの開発・生産能力、関係会社の業績及びその他のリスクや不確定要素を含みます。本プレゼンテーション及び引き続き行われる質疑応答の際の回答に含まれる全ての将来的予測に基づく記載や発言は、プレゼンテーションの日に入手可能な情報に基づいており、私達は、法令に定めのある場合を除き、このような将来予測に基づく記載や発言を更新する義務を負いません。また、この記載や発言は、将来の実績を保証するものではなく、実際の結果が、私達の現在の期待とは、実体的に異なる場合があります。このような違いには、多数の要素が原因となり得ます。これらの要素やリスクについては当社の継続開示及び適時開示等の記載をご覧ください。

表紙の写真は、日本電産ミンスター社製のEV用積層モータコア ラミネート用プレス機です。モータのコアに使われる電磁鋼板は高効率（低鉄損化）を目的として薄型化傾向にあり、本製品は極薄材料に対応するため3,700mmの超幅広ホルスタを採用。高剛性のフレームによって歪みを最小限に抑え、高精度の静圧／動圧スライドガイドによって優れた偏荷重対応力を発揮します。

■ 連結決算業績



(百万円)	18年度 第2四半期(累計)	19年度 第2四半期(累計)	前年比	19年度 通期見込
売上高	755,447	751,277	-0.6%	1,650,000
営業利益	96,168	62,207	-35.3%	150,000
営業利益率	12.7%	8.3%	-	9.1%
税引前利益	95,743	63,750	-33.4%	145,000
継続事業からの当期利益	76,737	48,705	-36.5%	-
当期利益	78,428	27,561	-64.9%	100,000
一株利益 (円)	265.57	93.65	-64.7%	339.80
対米ドル為替レート				米ドル=105円
平均…	110.26円	108.63円	-1.5%	ユーロ=125円
期末…	113.57円	107.92円	-5.0%	(下期想定レート)

* 21ページに記載の注記にご留意下さい。

為替感応度：1円あたり米ドルは売上高90億円、営業利益11億円、ユーロは売上高17億円、営業利益4億円（全てFY19通期ベース）

3

■ 第2四半期、連結決算ハイライト



- 連結売上高は、前期比横ばいを堅持し**通期ガイダンスは不変**。
- 営業利益は、需要急拡大のトラクションモータシステム等の開発及び生産立ち上げに向けた先行投資に係る追加費用（約85億円）及びモジュール化戦略を推進するためのエンブラコ買収に係る追加費用等（約30億円）を計上したことにより前期比35%減益となり、**通期ガイダンスを下方修正**。
- 当期利益は、エンブラコ買収の条件として欧州委員会から命じられたコンプレッサ事業（セコップ社）売却に伴う損失等（約200億円）により前期比65%減益となり**通期ガイダンスを下方修正も、期末配当は5円増配**の年間115円。

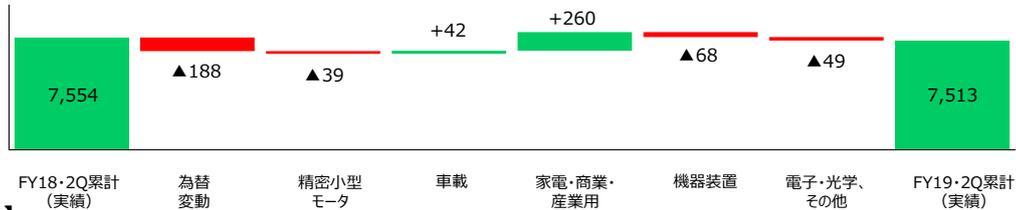
* 21ページに記載の注記にご留意下さい。

4

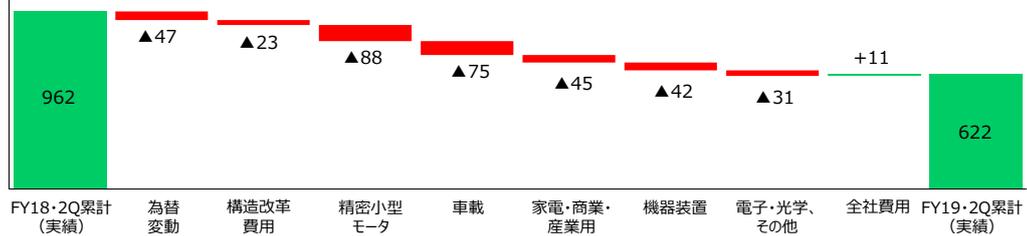
2019年度2Q（累計）の前年同期比増減分析



【売上高】 (億円)



【営業利益】 (億円)



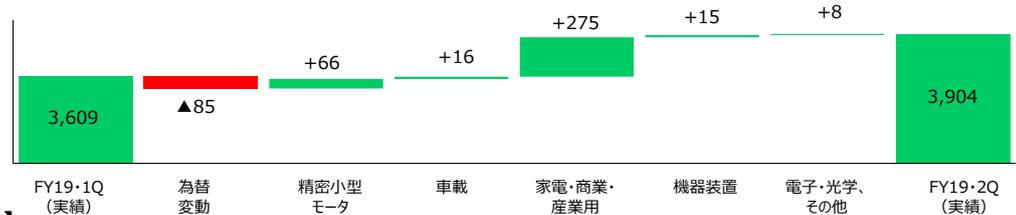
* 21ページに記載の注記にご留意下さい。

5

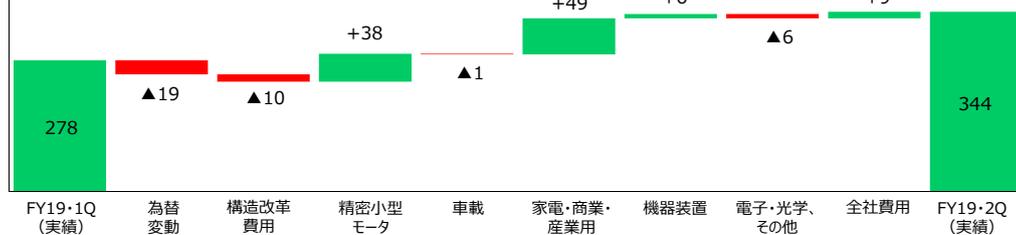
2019年度2Q（3ヶ月）の直前四半期比増減分析



【売上高】 (億円)



【営業利益】 (億円)

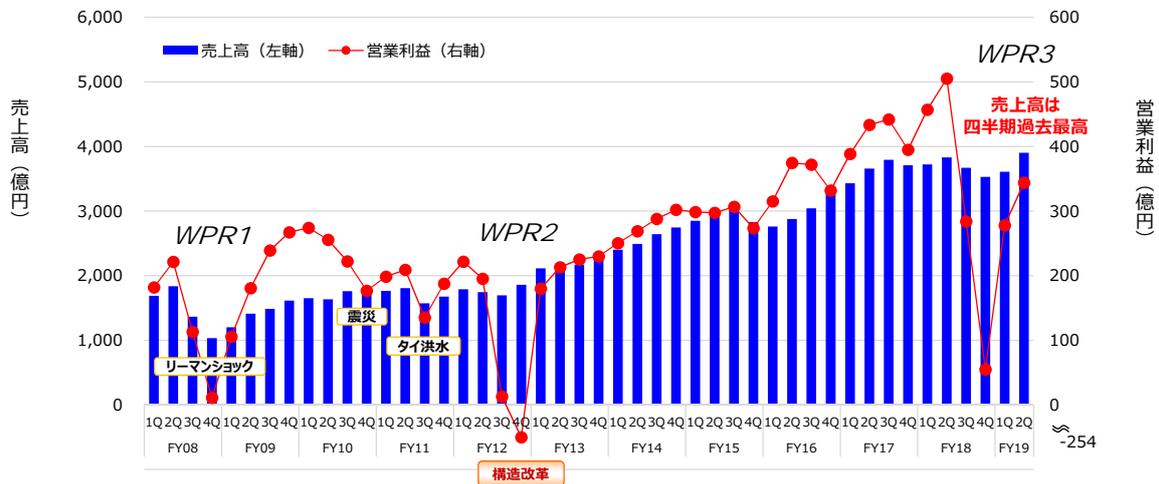


* 21ページに記載の注記にご留意下さい。

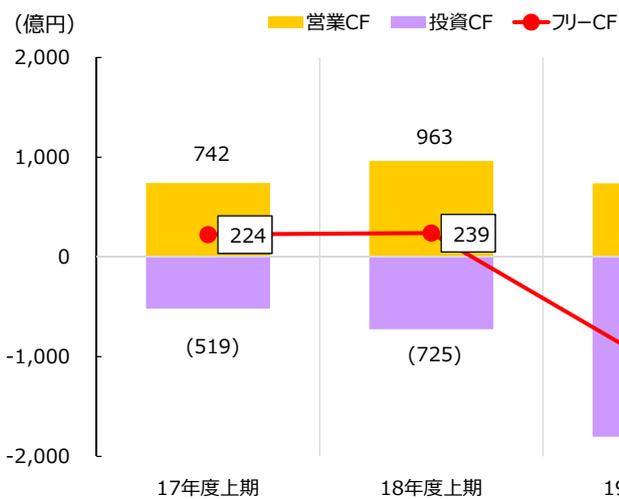
6

■ 四半期別の業績推移（売上高・営業利益）

WPR3 活動によるコスト構造改革を着実に継続し、需要の本格的な回復に備える



■ 連結キャッシュフロー推移

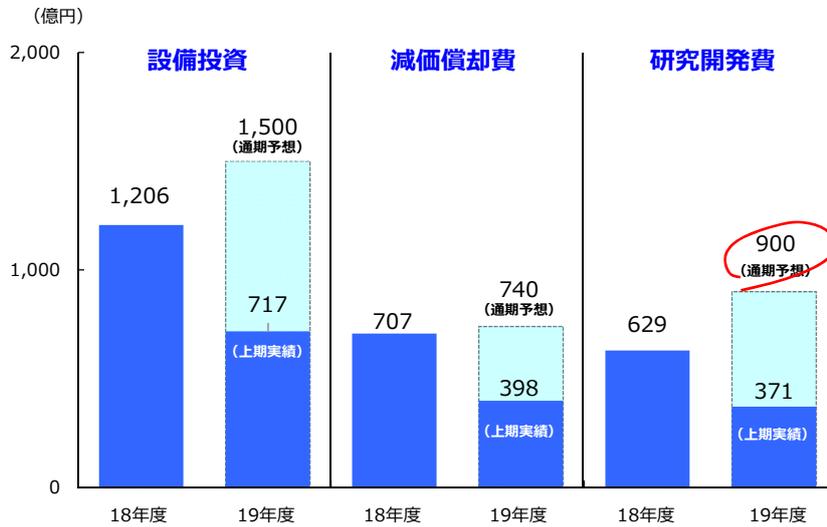


飽くなきCCC改善活動を継続し、中期成長戦略を担うCFを創出する

事業取得による支出
1,096億円を含む

※CCC: Cash Conversion Cycle

■設備投資・減価償却費・研究開発費



中長期成長を支える積極投資を今後も継続

■通期業績見込と期末配当の修正

【期初に提示したガイダンス】

(単位：百万円)	2Q累計 (予想)	通期 (予想)
売上高	750,000	1,650,000
営業利益	75,000	175,000
営業利益率	10.0%	10.6%
税引前利益	73,000	170,000
当期利益	57,000	135,000
一株利益 (円)	193.01	456.14
配当 (円)	55.00	55.00
為替レート (対米ドル)	105円	105円 (下期想定レート)

【2Q累計実績と今回修正した通期ガイダンス】

2Q累計 (実績)	通期 (予想)
751,277	1,650,000
62,207	150,000
8.3%	9.1%
63,750	145,000
27,561	100,000
93.65	339.80
55.00	60.00
105円	105円 (下期想定レート)

中期戦略目標

Vision2020

11

■ *Vision2020* : 中期戦略目標



利益ある高成長の飽くなき追求

- ① 連結売上高目標 2兆円
(新規M&A 約5,000億円を含む)
- ② 内、車載売上高目標 7千億円~1兆円
- ③ 連結営業利益率目標 15%以上
- ④ ROE (株主資本利益率) 18%以上
(株主資本比率60%を前提目標)
- ⑤ グローバル5極経営管理体制の確立

12

■精密小型モータ：開発体制の構造改革を強力に推進中

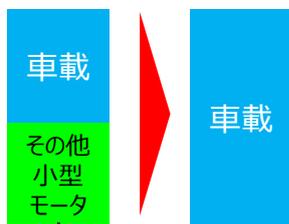


HDD用モータとその他小型モータの強みを融合、戦略機種開発や新ビジネス立上げへと繋ぐ

滋賀技術開発センター



<開発体制>
【Before】 【After】



その他小型モータの開発スタッフが異動

中央開発技術研究所



日本電産の祖業である精密小型モータ事業の開発陣営を再編し、新たな変革を起こす

<開発体制>
【Before】 【After】



- 【強み】
- ・FDB技術
 - ・精密加工
 - ・要素技術
- 【強み】
- ・回路技術
 - ・ソフト技術
 - ・顧客基盤



①戦略機種開発促進

【事例】

FDBファン、触覚用途、ポップアップカメラ用途、各種エコ家電用途、など



②新ビジネスの立上げ

【事例】

ペーパーチャンバー事業、EVトラクションモータの部品内製化事業、など

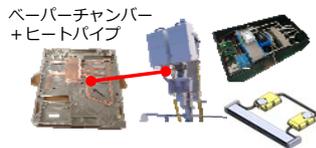
■精密小型モータ：5G分野に向けた新たな商材（冷却ソリューション）



冷却ソリューション新商材で、FY2022売上高1,000億円を狙う3つの柱

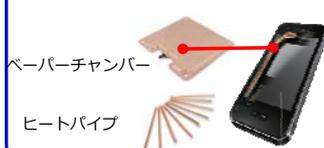
通信・IT関連

水冷・基地局・ゲーム



スマホ関連

伝熱・放熱商材の拡販

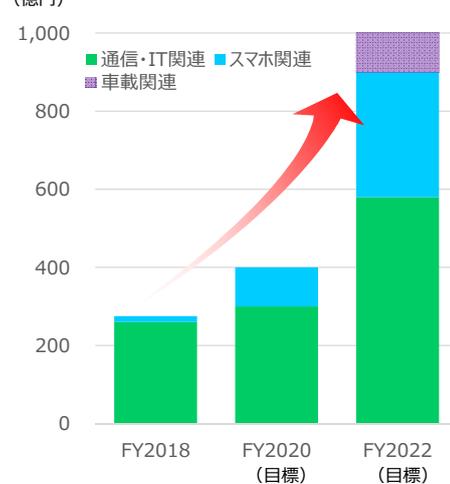


車載関連

クルマの電動化進展に伴う



【冷却ソリューション新商材の売上高目標】



■車載：トラクションモータ受注が進展、年間「百万台」水準へと突入

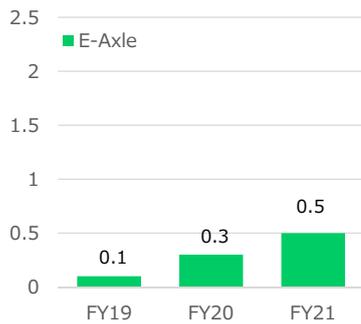


E-Axleを軸に追加受注好調、欧州市場向けHEV用途も加わって受注合戦が本格化

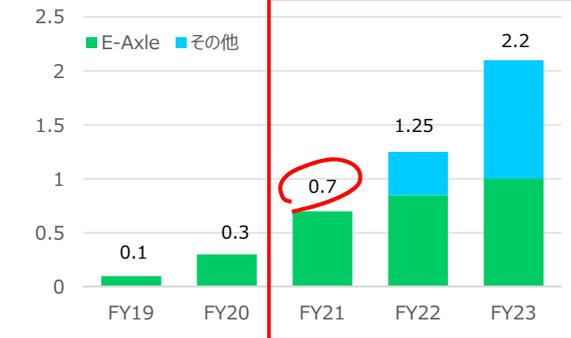
当社の出荷台数計画

FY22からは、E-Axleの受注に加えてHEV用トラクションモータの受注も開始。EV/HEV/PHEVの全方位受注体制に向けた受注が進展

(百万台) 【2019年7月時点の受注見込み】



(百万台) 【2019年10月時点の受注見込み】



3ヶ月間で
5倍

■車載：車載3大製品の市場シェア目標

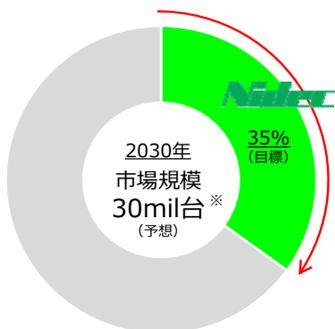


クルマの基本3機能「走る・曲がる・止まる」の全分野においてダントツのシェアNo.1を目指す



【走る】

トラクションモータ
(現在の市場シェア推定約4%)

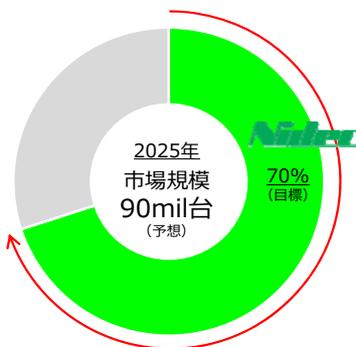


※EV/HEV/PHEVの合算



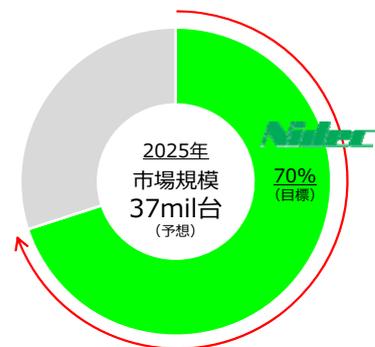
【曲がる】

電動パワステ用モータ
(ブラシレスDC)
(現在の市場シェア推定約40%)



【止まる】

次世代ブレーキ用モータ
(現在の市場シェア推定約50%)



■家電・商業・産業用：一部の海外事業で反転の兆し

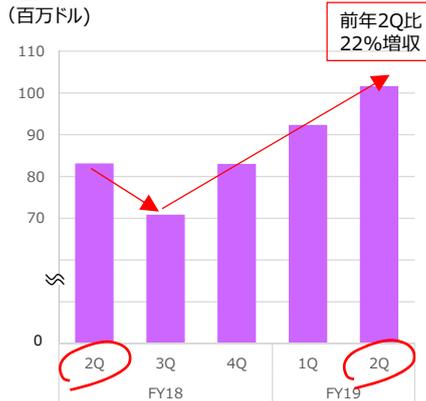


ビジネス環境の変化を敏感に捉えて、新たな成長の種を手繰り寄せる

【空調事業（米州）の四半期売上高推移】



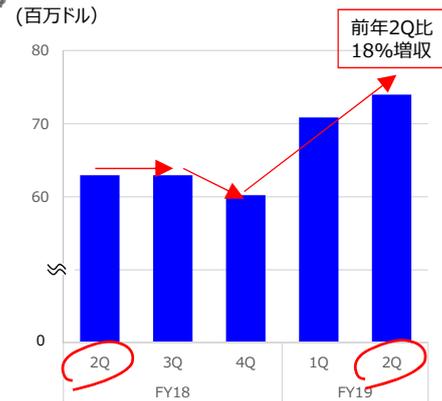
新高効率規制、米中貿易摩擦を逆手に取った競合シェアの奪取



【エレベータ事業（米州）の四半期売上高推移】



NY州安全性規制強化を追い風に北米パッケージ売上高が大幅伸長



■家電・商業・産業用：エンブラコは、FY19下期から早くも収益貢献へ



「24時間/day×365日」稼働し続ける冷蔵庫に省エネ需要拡大の波が到来



エンブラコ・ブラジル社

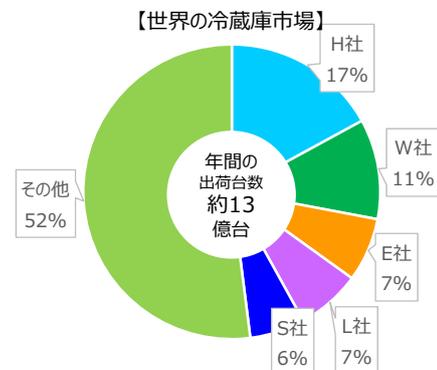


エンブラコ・メキシコ社



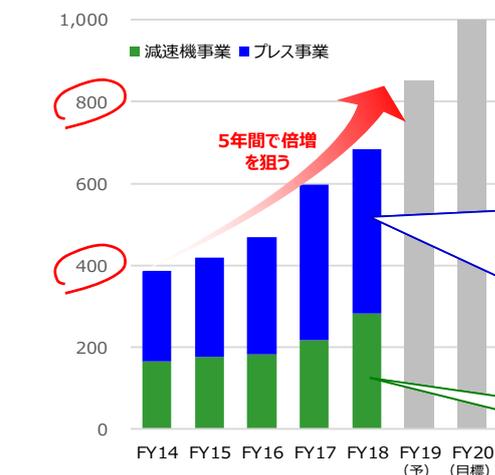
世界の冷蔵庫用コンプレッサの約8割がAC仕様

ブラシレスDCへの置き換えが今後は加速



新製品投入による着実な自律成長とM&Aの連打で製品ポートフォリオを拡充し高成長を実現

【日本電産シンポの年間売上高推移】



<プレス事業>

自律成長

KYORI



M&A

MINSTER

ARISA

VAMCO

SYS



M&Aを行った海外ブランドが軒並み好調

特に、食品・飲料用缶プレスメーカーとして世界市場トップシェア（85%）のMinsterは、製缶用プレス機の受注が増加。プラスチック汚染問題への懸念を背景に、ペットボトル（PET）の代替需要としてアルミ缶への切り替えが推進されていることが背景。

<減速機事業>

FLEXIFIVE

CORONEX

遊星減速機

MSグレスナー

デッシュ



日本電産グループが事業を通じて排出するCO2を削減するためのプロジェクト

SMART2030 (Sustainable Manufacturing And Resilient Tomorrow)

目標	2030年度に、2017年度比でCO2排出総量を30%削減する
実現に向けた施策	<p>① 自社事業のエネルギー効率の向上 (新建屋建設時のLED導入、空調システムの効率改善、AI活用など省エネ型生産プロセスの開発)</p> <p>② 再生可能エネルギーの積極導入 (太陽光以外の再生可能エネルギーの活用検討、太陽光発電パネルの導入、グリーン電力証書の活用推進)</p>

SMART2030

定性目標

気候変動に起因する当社グループの事業リスクおよび機会を特定し、**対策と開示を実施する**

定量目標

2030年度の温室効果ガス排出量(総量)を**2017年度実績比で30%削減する**

プロジェクトの適用範囲は日本電産グループの国内外事業所



お問い合わせ先

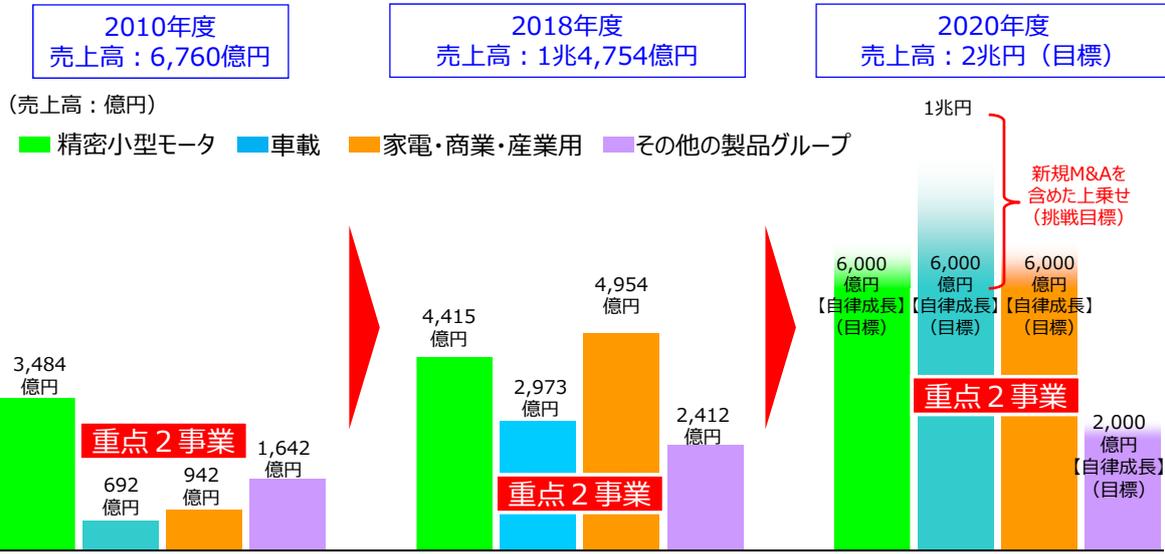
日本電産株式会社 IR・CSR推進部
Tel : 075-935-6140
E-mail : ir@nidec.com

注記：IFRS第3号「企業結合」の規定を適用しております。
前連結会計年度のChaun-Choung Technology Corp.の株式取得とMS-Graessner GmbH & Co.KG及び関連グループ会社の買収により取得した資産、引き継いだ負債に関する公正価値評価が当第2四半期連結会計期間に完了致しました。これにより前連結会計年度の連結財務諸表については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初配分額の見直しが反映された後の金額によっております。

補足資料

業績推移・ 製品グループ別状況

■「6千億円×3本の柱」が軸となる新たな2兆円企業集団へと脱皮



* 21ページに記載の注記にご留意下さい。

■ “4つの大波”に新たに加わる5Gの大波によって「5つの大波」へ

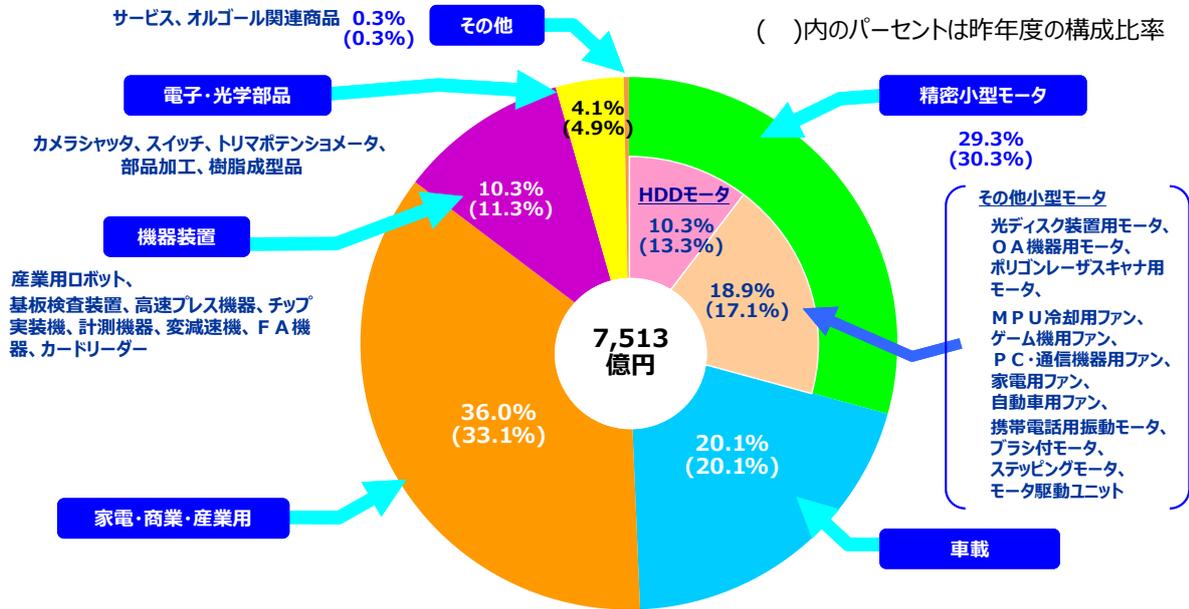


クルマ・ロボティクス・省エネ家電・ドローン用途等、創業以来の大波が続々と到来

- 脱炭素化の波**: クルマの電動化、EV・PHEV。内燃機関から電気へ。100年に1度の技術革新。
- デジタルデータ爆発の波**: 5G通信に起因する様々な次世代技術。通信速度100倍がもたらすハードウェアの技術革新。
- ロボット化の波**: ロボット活用の拡がり。協働型ロボットが食品・物流・サービス分野へ。市場急拡大。
- 省電力化の波**: 家電製品のブラシレスDC化。コードレス化や高機能化。家電製品の技術革新。
- 物流革命の波**: 農業・物流の省人化。人手不足の深刻化。第4次産業革命が追い風。

19年度上期製品グループ別売上構成

* 21ページに記載の注記にご留意下さい。



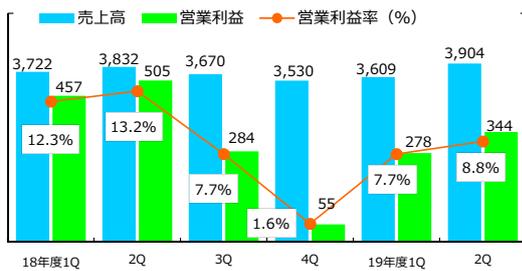
25

連結決算ハイライト

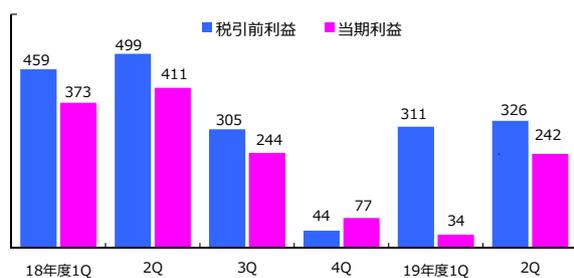
* 21ページに記載の注記にご留意下さい。



【売上高・営業利益の推移（億円）】



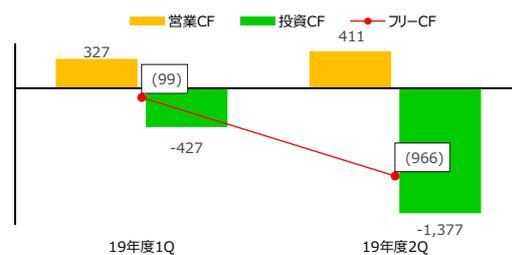
【税引前利益・当期利益の推移（億円）】



【配当金の推移（円）】



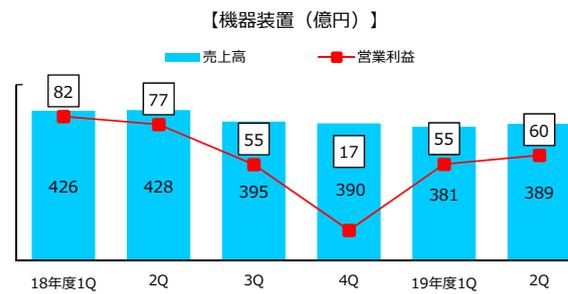
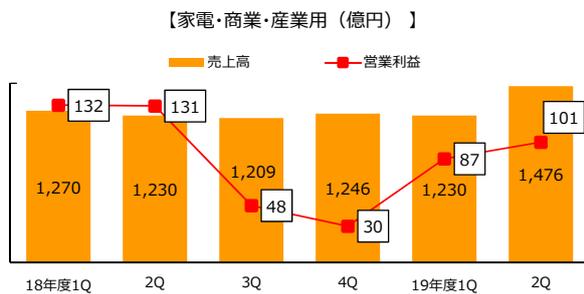
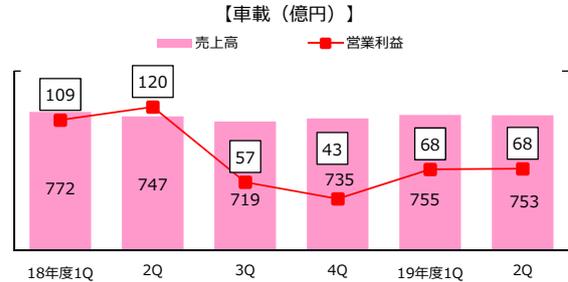
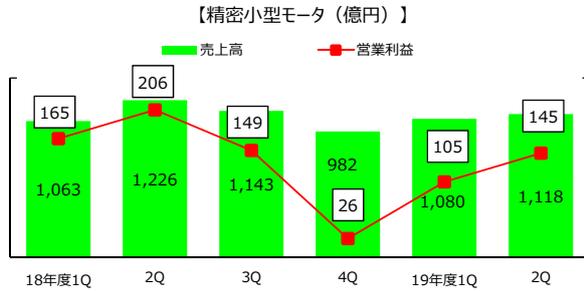
【キャッシュフローの推移（億円）】



26

製品グループ別業績推移

* 21ページに記載の注記にご留意下さい。

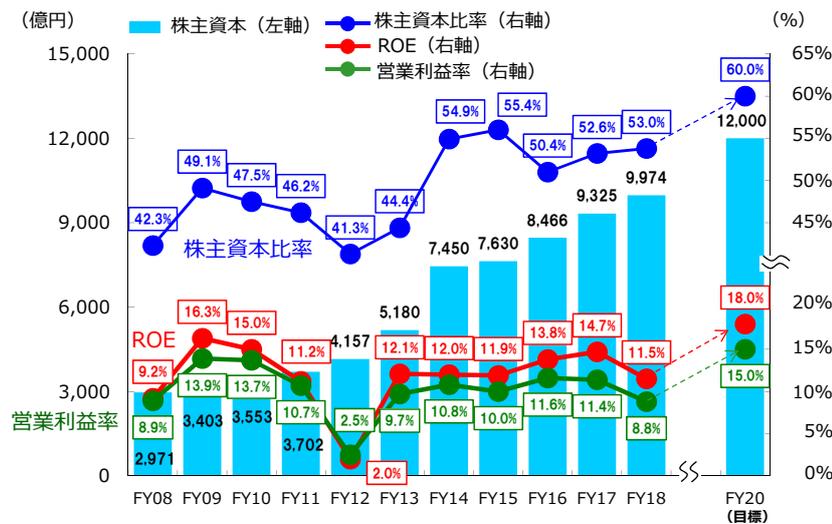


Vision2020：利益ある高成長と財務規律の両立

* 21ページに記載の注記にご留意下さい。



財務規律を維持・向上させながら 営業利益率15%/ROE18%を狙う



三位一体のROE向上
 ・ 売上高純利益率
 ・ 総資産回転率
 ・ 財務レバレッジ

米国会計基準

IFRS